

大正九年

一月一日 **storm** を行ふべき勇士眠りて天下泰平、鼾聲恰も雷の如くにして舎生一同熟睡の内に泰平の春は迎へられたり、否実は床に入りたるは三時にしてそれ以前には残舎生一同図書室に於て各自希望と理想とをもって厳肅に大正九年を迎へたるなり。

一月二十日 我が舎長宮部金吾様帰札さるる。

朝八時四十分にて到着の筈なりしも延着する事四十分、舎生一同出迎へす。

一月二十四日 宮部夫人の葬儀あり。舎生総代として小野君参葬致さる。

食後競売ヲ行フ

一、十二月中央公論 三〇 笹部君、 一、十二月太陽 二五 奥田君 一、一月タイムス 三〇 中村君

一、一月朝日 四〇 宍戸君 一、一月讀賣 四五 小国君 一、〇サラシアン一本 三五 伊達君 一、〇浮石検 三五 小野君 一、〇サラシアン一本 三五 大小島君 一、半紙一帳 二五 伊達君

一、〇書様 一五 小国君 一、世界地図 一〇〇 岡田君

〇印ハ食事部ニ属スルモノニテ二月ノ計算に於テ会計部の雑収入とす。

一月三十一日 (土) 月次会を行ふ。委員 (伊藤君、鈴木誠君、愛橋君)

二月三日 地に叛く者 (一六〇) 叩けよ開かれん (一二〇)、右二冊ト クレオパトラノ鼻 (小野君寄贈) トヲ文藝部に新設す。

二月四日 夕食後競賣を行ふ

一、一月中央公論 (一三五) 鈴木誠君、 一、一月太陽 (八五) 愛橋君、 一、二月タイムス五〇 中村君 一、二月讀賣六〇 中村君 一、二月朝日七〇 中村君

二月六日 (金) 学校の創立記念日 (降雪ある)

二月七日 (土) 灰燼に帰せんとせし寄宿舍はそも誰によりて救はれたる乎

第一限の授業を終へて帰舎せる渡辺文雄君異様なる匂いのすることを不思議に思ひ四号室の戸を開くればそも如何に黒煙室に満ち火鉢の側の座蒲団はポロポロ赤舌をひらめかして燃え居るなり、一大事と居合はせたる舎生集りて消火したり、あゝ思ふだに冷汗の流るゝ椿事といふべし。あゝ呪はれたる日か？あゝ不幸の日よ！！

然し、我等は喜ばざるべからず、事なくして済みたる事を！！

然して渡辺君の功を称へ氏に謝礼申さざるべからず、尚ほ不幸の中にも幸を与えられたる天の神に深く深く御礼申上げざるべからず。

四号室在室者 奥田義正、笹部義一

深く全舎生諸先輩にこの軽率を謝し以後深く注意を致すべく……嗚呼……嗚呼

大過失をなしたる此の罪如何にして云ふべきか？

二月十一日 (水) 窓掛けを引けば今まで遮られて居た先は恰も堰をはづされた水の如くに流れ込み一時に室内も明るくなりたり。梢を動かす風もなく空は鉛色ながら太陽東天に懸りて斯くして紀元節の朝はうらゝけく晴れたり。

舎生一同学校の儀式に出席し、十時十分式も終へて帰る。本日は本舎年中行事ともなり居る机球大会を催す。午前十時半より左のメンバーによって行はる。 1

一、紅白試合		優待組試合	
紅	白	紅	白
小野	村岡	小野	
鈴木誠	岡田盛	奥田	渡辺国
渡辺文	渡辺国	太田	
笹部	伊達	鈴木貞	伊達
小西道	小国		
奥田	富永		
小林	玄		
太田	中村		
小西武	愛橋		
鈴木貞	大小島		

技倆に於ては紅白いづれも雌雄なきところなるも紅軍能く策戦を回らし適者を適所に配置し或は敵の弱を突き或は敵の強を挫き思ふ壺に敵を入れ遂に優待を敵の倍数を出し優勝戦に於て大将を防組として見事本日の桂冠を得たる。

二 抽籤試合＝抽籤によってオーダーを定めて行れしものにして そは恰も余興に似たり、十二時半机球大会を終る。

食事としてはしるこの饗応あり。

食後柔剣道の武道の試合催さるる豫定なりしも室内にて行ふ 場処なく舎の横のポンドの上にて、笹部君村岡君福永君岡田玄君等の雄者之を行ふ、雪中に竹刀の音冴えて道行く者の足をとどむる者も多かりき、之も加へて年中行事の一に加はる事とすると話もあり。斯くして今日の紀元節は有効に愉快に送られたり。

二月二十八日 月次会を催した。委員左の如し。

中村弘志君、小林作五郎君、富永長久君、渡辺国雄君

節くれ多い古びた陰気ないつもの食堂は全くその姿を一変して白紙をもって蓋はれたる食卓は位置よく配置されたり、全バーそのものは遜色なし。暑きスープは湯気をあげ、林檎と蜜柑の山盛りは異彩を放つ、食卓ごとの造花の備も亦人目をよろこばし雅趣は味感をも増したり、ポーク厚き肉片は快く備へられたり一同心ちよく御馳走になる、西洋料理■ふればサシミ付日本食事行はる委員の御手なみ感服せざるものなし。

六時半より講演に移る、舎生の有志演説を始めとしてその後、先輩の話ある、殊に河村さんの南洋視察談は長時間に渡りて最も実のあるものなりしが遺憾ながら…記者欠席す。後は例の如く大騒をなして十一時半をもって閉会す。

二月二十九日（日） 左のチームをもって製麻会社とピンポン対抗試合を行ふ

寄宿舍 製麻会社

奥田	熊谷	小国	内野
宍戸	西村	鈴木貞	石田
笹部	二瀬	中村	渡辺
渡辺国	西宮	岡田玄	大山
村岡	南出	太田	五藤
富永	宮地	小野	中津川

敵は優退組を二ツ出し我は優退を三ツ出す。

優退の数より既に我は優勝の地にあり、尚、我が大将は敵の大将、副大将を斃したれば之をもって我が勝利とするも当然のところなり、然れども順序によって優勝戦を行ふ。

宍戸	西宮
村岡	石戸
小野	

最後に小野君と石戸君との勝負は手に汗を握らしたり、然れども見事小野君の勝ちとなりたり。然して我が舎は勝ちたるなり。

三月十四日（日）例年に依り記念写真を撮影す。本舎の入口に於て。

本日、本舎長宮部先生より左の寄附あり。

一、金五拾円也、一、カーライル肖像額一箇

三月廿日（土）当日本月次会の為め委員会を開く。月次会委員を左の如く定む。

岡田玄武君、太田廣吉君、笹部義一君、富永長久君

三月二十四日（水）本日をもって豫科の試験も終りたるなり、先に試験を終りたる専門部の方々は、試験後の愉快をも殆ど豫科のために犠牲となされて同じく禁愼の態度なりき、之誠に本舎共同団体のよきところなり。

そうして愈々宮部先生歓迎会並びに渡辺君の送別会を行ふ。

会次左の如し。

先づ、委員諸君の努力の結果は美しく卓上を飾りたり。副舎長小野君の挨拶のもとに皆御馳走になったり。即ち、先生を始め、石沢氏、河村氏、北村氏、亀井氏の諸先輩等々出席致し下さる。四五の帰省生を除き在舎生十五名なりき。食後約一時間を経て笹部君より開会の辞は、述べられ太田君により渡辺君に対する送別の辞を述べられ、渡辺君の挨拶ありたり。伊達君は有志演説を行ふ、次に石澤さんの渡辺君に対する祝辞ありたり。要は「渡辺君入舎して爾事三年間この舎に居續けたるは誠に称讃するに値するものにして又社会の正しく要求する人物は斯る人なり。現代社会の一般を見るに唯物主義盛んにして一片の義理人情もなく利の為めには今日の職位を棄て、明日はよりよきものにつく現代に当り、克くも、総て三年間に生じたる誘惑あるひはその他の害を善良なる意味に解して遂に三年も舎に居つづけるは重ねて称へ終りに前途の祝福を健康とを祈らる」宮部先生は先づ留守中に於ける舎生の厚意に対して感謝を述べられて後、戦後の欧米の視察談耳新しき事ども多かりき。

1、亜米利加は目下日本と非常に戦争をせんことを希望してゐる事、即ち、現今の亜米利加の武力と金力とに於ては日本に勝つ事は火を見るより明らなり、それで打つべき時は今なりとこの好機の逸せん事を非常に怨みとして居る様子なり、然し日本にてこの時怨を忍んで五六年待ちその兵力と富力を増し、この頂にある亜米利加の下り阪にあたりて打つべきなりと。以下略す。

二十五日 伊達君大小島君早朝より出発

三月二十七日 庭球グラウンドの雪除けを行ふ。本日は食事は二回なりき。残舎生の労賞するにあまりあり。晩十二号室に怪談会開かる。

然れども実際は怪談はなく快談会なりき。

三月二十九日 庭球グラウンドの垣修繕を行ふ

三月三十一日 大学よりローラを借りて来る。

四月一日 切角の初テニスも雨に流されるかと思はれたが、幸いにも雨は小降りで済んで気持ちよく庭球を行ふ。

四月二日（金）小林作五郎君帰省す

四月七日（水）小林君帰省す

四月十一日（日）深更帰省中の伊達君大小島君帰舎

四月十二日（月）農学実科一年小野誠四郎君入舎

四月十三日（火）渡辺国雄君一号室へ

奥田君より文芸部を引き継ぐ

十五日（木）本朝鈴木誠志君愛橋君帰舎。

十六日（金）本夕愛橋君退舎。競売を行ふ。

北海タイムス

朝日新聞

読売新聞

太陽

中央公論

評判の絵葉書の競売は左の如し。 、、、、。

十八日（日）昨日午後より本日に掛けて大学グラウンドに於てオリンピック予選大会ありたり。本朝部屋替えあり、左の如し。

一号 七号

二号 八号

三号 九号

四号 十号

五号 十一号

六号 十二号

昨日より忍路へプランクトン研究の為め行った伊達君本日夕方帰舎す。

廿日（火曜）水産三年の赤井英吉君入舎

四月廿四日（土）月次会を開く。先づ肉鍋をつゝき、歓談をかはし、更に七時より辨論をやる、題は普選問題の可に就てだが論題の不徹底がたたったのか、餘りふるわなかつたが、これからこんなことを出来るだけやって見たい。

月次会をもう少し一般的の興味を加えたい。石沢さんの話や舎長の話があつて十一時例の話に落ちついて散会とした。

二十五日（日）本夕小野副舎長徴兵検査のため山梨へ帰途に就かる。

朝内地に旅行中だった岡田君帰られたがすぐに午後の汽車で苫小牧へおもむかる。

特記すべきことは休暇中に居残りた人達が、、に選挙の推薦状の上書きをたのまれて四五  
十枚書いて其の報酬として月次会の、、、、舎に寄付することになって、、、、

三十日（金）徴兵検査のため帰省の小野君、甲種に合格の名誉を〇って本朝帰られた。

五月三日（月）競売<略>

八日（土）本日遊技会あり。<略>

十日（月）運動部への四十円の収入の中で企てた金棒の修繕がかなつて、、、、

十九日（水）一昨年の卒業の岩下君久振りに舎を訪はる。夕食後同君の菓子の饗応あり談話を交わした。

廿一日（金）富永君親戚の慶事にて旭川へ行かる。夕食後加藤、大小島生地質旅行のため十勝地方へ出発。

廿二日（土）夜出火あり。

五月廿三日（日）旅行して居た加藤大小島生帰舎。雨降りのため延びて居た大掃除も今日漸くやれた。

廿五日（火）富永君帰舎。<略>

五月廿九日（土）月次会兼送別会の日である。

言傳のあやまりから少しまごついて従つて会の始める時刻も遅れたが、先無難にやれた。

委員の顔振は、渡辺君、赤井君、鈴木君、小林君、小国君。

御馳走も相應に出来た。会もとどこおりなく進行した。毎年きまりきつての会だが送別会は矢張り淋しい。小野榮治兄、岡田盛隆兄は夫々化学科、林学実科の卒業で共に入学当時からの在舎だ。舎にも思いが深い。伊達兄、加藤兄は仙台の大学へ転学だ。諸君達の前途に榮あれ。小野兄の過ぎさつた一ヶ年の副舎長の勤勞の謝礼として置時計を送つた。

永く兄の机にありて思出の程となれ。

散会后賄婦に就ての相談があつた。自我の強い女だからおれ合に難しい。だが、働くことは確だ。他に適当な女もないことなら其儘でいいだろうとの事になった。

六月三日 本日競売をやつた。

読売新聞 五十銭 鈴木君

十二日 今日から廿一日迄水産専門部を除いて学期試験がある。此の三学期の試験は僕等

にとって一番の深い感銘を残す、諸君の身の上に榮あれ

十五日 札幌神社の祭禮だ。町の人々は着飾って出あるく。大通りあたりの興行物の囃が聞える。五條の通りも貧弱ながら赤青の電燈で飾りつける。今日から水産の養殖の方の試験がある。

廿一日 試験が済んだ。皆は重荷をおろした。これから長い休がある。何とも言へない喜を感ずる。

廿二日 送別会がある。委員は鈴木（貞）、中村、岡田（玄）、岡田（盛）の四名でタクトを見せた御馳走振であった。

諸君の送別の挨拶があつて長い休暇の前の別を惜んだ。小野兄、岡田兄、加藤兄、伊達兄は最早愈々送らるる人となった。四君の将来の御発展を祈る。加藤兄は夜九時の汽車でたつて行った。最後に寄書をした。

宮部先生は御出席で御話があつた。アイスクリームの饗応は頗る我意を得た。

廿三日 色々の曲折を見た伊達君も志望に可能性が見えたので本朝の汽車でたたれた。真摯な君の未来は多難と雖も必ず大成の道に進み得らるると思ふ。

午前九時の汽車で林学実科の一年の富永、渡辺、岡田の三君は苫小牧の実習林に赴かれた。午後奥田君は定山溪の友の許に赴く。

小生（大小島）小野君より社の事務の引続をする。

廿四日 午前穴戸君は小樽へ、晝食後、小野君はトーベツに赴かる。

廿五日 穴戸君帰舎、小野君午後帰らるる。

奥田君も帰舎さる。

本日より畳替をやる。表替せるもの廿五枚、裏替せるもの十二枚、新しい畳のにはい程心地よいものはない。

賄婦の方の室もさっぱりした事だらふ

廿六日 畳替すっかりすむ、決算をやる。

この日副会長だった小野兄は過ぎし六年の夢を残して札幌を去った。嘸感慨の深いことだろう。

廿七日、赤井兄がたつた、来月中は実習がある

だが流石に解放された喜はあつた様だ、奥田君は旭川へ。

廿八日 穴戸君がたつた午後九時の急行で岡田兄は帰郷の途につかれた。数日前から連日の胃の腑の過労のためか盲腸をいためて臥床中だったが快くなったので出発したわけだ。君の如きブウリタンに幸多かれと祈る。伊達兄加藤君の転学許可の報を聞く。

謹んで礼意を表する。

廿九日 奥田君旭川へ行って居られたが帰舎し、直に九時の急行で郷里に出発さる。

七月一日 晩七時頃富永君渡辺君苫小牧の実習より帰られる、食事あり。

二日 朝、大小島君小樽より帰り来たる、鈴木誠君動植物実験の爲、八時五十分の列車にて忍路にかかる。

今日、水産専門部の人々は試験終了せり。我々が利己的に騒がしかりしことに如何に勉強の妨げをなしたるかと思ひ、こゝに深くこれを謝す。小林君四時五十分の列車で帰郷せらる。

三日 渡辺国雄君今朝五時四十分で帰らる。

太田君午後の列車で釧路方面の水産調査の為に出發せらる。岡田玄武君実習より帰らる。

四日 富永君はる※※徳島に向ひ、四時五十分の列車で出發す。

五日 残舎生八人で夕食後、小野君○伊達君の合計の奢りにてアイスクリームを飲む。

先づユーゴー亭で一杯、米風亭で一杯、後パウリスタでコーヒー及び菓子を食って帰る。

腹が大部がおかしい。冷たい処へ暖かいものを飲んだ故にこのことにつき小野及伊達の二兄に対し深く感謝の意を表す。

今晚十一時半の列車にて笹部君小野君には実地実習の為帯広方面に行かる。

六日 大小島君中村君の二兄には今朝の列車にて帰省の途に登らる。食事あり。天候悪いがあれなければよいが。愈々これで残るのは三人となつてしまった。この舎の古建物の中に居るとおぼけで出さうだ、とてもさびしくなつた。

二十二日 夢にも忘れ得ぬアカシヤ街のマウティンリヴァーで氷志るこを名残に、鈴木貞雄君は九時の急行で楽しい帰省の途につかれた。

三十日 徐ろに思へば九年の昔今月今日、千古たぐひなき聖帝明治天皇は崩御ましましたのであつた。見捨てられた寄宿舎を二ヶ月の間留守をすべく運命づけられたわれら孝行もの、こゝぞとばかり名のりを揚げれば林学士亀井専次氏、水産得業士渡辺文雄氏、棒頭小国潔の面々なり。

揃ひも揃つたこの大茶目小茶目、今日の日を紀念しようと云ふので前の晩の計画通り眞駒内方面へ一日の遠足を試みた。いでや三對の跡を記さん。

豊平の上流、激流悍々の岸で持参の肉鍋で握り飯をやつつけた。午後四時山鼻の一本街を下つて無事帰舎。この日北大グラウンドにオールホワイト軍とオールホッカイド一軍とのオリンピック競技があつた。

六十四対六十二でホワイト軍の勝。

八月八日 曇、本日午後残舎生總手にて七月分の決算をなす。思ひしより安かりしに安心す。

八月十二日 曇、后晴、亀井専次氏森林昆虫研究の為、天塩上川郡下川駅に向け、朝六時四十分の列車にて出發せらる。

正午過、副舎長大小島眞次様の御母堂舎に見えられたり。

五時経ぎにて有りし伊達宗雄様大学の正帽正服にて舎に来られたり。希望通り東北帝国大学に入れ喜びの心を顔せたり。

夜は亀井様の置き土産に笹部、小野両君が持ち来りし枝豆に大小島様の栗饅頭に尚五錢づつのコムパーして砂糖買入れてコーヒー飲み談笑す。大小島様の枝豆食ふに巧みなると共にジャンケンに上手なるは驚くに堪へたり。小国君ジャンケンに最も弱し、買入れ、

後始末全部小国君の手をわづらはす。

八月十三日 晴夜、小野笹部両君出でて体菜の種子三拾二錢也、又、トマトを買ふ買入れは笹部君、後始末は小野君なりき。

八月十四日 曇后晴れ、本日より秋期競馬初まる為、煙火しきりに上る。夕方大根畑を作る。夜は先晩の如く又枝豆御馳走有り。

終りて残舎生一同に伊達様とて山河へアイスクリーム、帰途国に君六錢奢りてジャンケンにて笹部君買方。

八月十五日 晴夕立有り、本日は中之島公園に農具共進会の初まる日なりき。夜残舎生六名錦座に落日の山道及び獣魂大会を見る。帰り晚く十二時を過ぎたり。

八月十六日 晴后小雨、地獄の蓋開してふ日なりけり。善哉の御馳走有り。午前に亀井様、天塩より帰舎せらる。正午に旭豆の御馳走、夜は大阪より送られたる大小島様の福おこし。

八月十七日曇后雨、伊達様愈々明朝帰らるとの事にて夜天塩より帰られたる亀井様の歓迎と伊達様の送別を意味する夜会を開くぞよと大本教札幌支部と小国君の書かれし揭示事実となりて副舎長の室にて催されたり、ジャンケン矢張り流行りて今夜は渡辺様最も弱かりきは常にも似ず。

八月十八日 晴小雨有り。朝五時四十分の列車にて伊達宗雄様帰らる。次に午前中大小島様小樽に越かる。

八月十九日 晴れ、八月に有りて初めて一滴の雨も落ちざるの日なりとかや。大小島様正午頃一寸舎に見へられ直ぐ又旭川、定山溪方面に御母堂の御供とは羨しき次第哉。小国君明後日帰省せらるゝとかにて土産物の事でお大騒ぎ、帰省せざる不孝者は笹部君と我と也。

八月二十二日 亀井様正午小樽に行する。午後三時頃なりき、福井より来りたりと云ふ新入生入舎せんとして来る。彼は基徒教青年会寄宿舎に行きて納まれり。

八月二十三日 亀井君帰舎

八月二十四日 大小島君帰舎昼食アリ

廿八日 本夜予科三年馬場君入舎

廿九日 予科1年小野君、山縣君入舎

三十日 朝、岡田玄武君帰舎、奥田君帰舎食事ナシ

三十一日午後十一時小林、宍戸、小国、中村四君帰舎。土木専門部一年山内君入舎晩より食事

九月一日 農学実科一年 山口九郎君入舎晩より食事。農学実科一年松本○君前日入舎本日より食事あり。

二日 テニスコートノ大手入ヲ行フ中村君奥田君ヨリ菓子饗応アリ。

四日 笹部君発起ニテ萌岩山上ニ於テ新入生諸君ノ歓迎会ヲ行フ一行ハ笹部、小野、奥田、岡田、小野（修）、山縣、山口、松本、山内ノ諸君ナリ。午後五時半出發途中ニテ食料品

ヲ購入シ十時前山頂ニ達ス十二時頃食事ヲ行フ、食事ノ用ニ供セシハ黍及トマトウナリ  
五日 食後ヘボヌケヲ行フ事数回ニシテ寝ニ就ク。石室ニ寝ルモノ簡易天幕中ニ寝ルモノ  
露天ニ寝ルモノアリ三時頃ヨリ雨降り来ル四時半石室内ニテ食事（パン）ヲナシ五時下  
山ノ途ニツク大雨沛然トシテ至ル 山腹ニテ馬場小国二君ノ応援ヲ受ク、下山ニテ又中  
村君ノ其レヲ受ク、諸君ノ親切ハ感謝ニ言ナシ七時前帰舎ス。

十一日 舎生一同円山小手丘ニテコンパ会ヲ行ヒパンヲ食ヒ牛乳ヲ飲ム

十二日 テニス大会ヲ行フ、十時過ヨリ雨フリ出タルモ全番組ヲ終了セリ、此ノ日汁粉ノ  
饗応アリ

十三日 競売ヲ行フ結果次ノ如シ

七八月新聞 五十銭馬場君、四十七銭中村君

タイムス四十銭大小島君 讀賣六十五銭小野君

朝日七十銭鈴木誠君、太陽七月五十一銭山縣君

太陽八月四十七銭大小島君

太陽増刊七十八銭鈴木貞君 中央公論八月四十銭山縣君 中央公論増刊九十五銭小野君

十八日 予科（英）一年山田弥三郎君入舎セラル食事ナシ

二十五日 午後七時 小国宍戸二君実習ヨリ帰舎。

此ノ日月次会アリ、新入舎諸君ノ歓迎会ヲ兼ネタリ、石沢、亀井二氏ノ御来席アリ訓話  
ヲ給ハル、会后協議ノ結果ヲ示セバ

新委員 会計大小島君 食事奥田君

運動小国君 衛生宍戸君 文藝笹部君

又、来月ヨリノ新聞ハ讀賣及大阪朝日新聞ト改ム、来月ヨリ電燈ハ二人ノ室ノミ廿四燭  
ト改ム

廿六日 昨夜ノ雨ハナゴリ無ク晴レテ明クレバ絶好ノテニス日和ナリ、午前十時ヨリ当舎  
コートニ於テ対埼玉寄宿舍ノテニス大会ヲ催ス。我ガ軍ヨリ戦ヒシモ時ニ利アラズ零時  
半コレヲ終リ両軍撰手ニ茶菓ヲ饗ス当日ノメンバーヲ示セバ次ノ如シ

1 赤井君・中村君 2 鈴木貞君・山縣君

3 太田君・宍戸君 副将山田君・山内君

大将奥田君・小国君

先鋒ノ中村組敵ノ先陣実ハ大将ニ破シ山縣組又破レ敵優勝。太田君病後ノ身ヲ持テ敵ニ  
ツヲ倒セシハ天晴※※、後遂ニ振ハズ無念残念。

此ノ日午後舎ノ周囲ノ草刈ヲナス、三時間程ニシテ之ヲ終ル

尚午後六時五十二分ノ列車ニテ渡辺君帰舎。

八時ヨリ園藝部ノ発起ニテ植物園ニ観月会ヲ催ス。枝豆及渡辺君土産ノ葡萄ヲ饗応サル、  
ステニ露ヲ帯ビタルローンノ上ニ円坐ヲナシ共ニ手ヲ打チテ唱を歌フ十時前終ル。

九月二十八日 九月分決算ヲ行フ

九月三十日 今晚十二時否明日午前零時零分現存ノ國勢調査行ワル 余晩ハ諸興行物モ諸

催シモ午後十時打切りトカ、丁度其次宣傳號砲二、三発、停車場ニ響ケリ、在舎生十九名慎シテ佳キ晩ヲ過セリ、アナカシコ。

十月二日 岡田玄武君定山溪ニ実習ニ行ク、小林君小樽ヘ行ク。

本日石狩ニ舎全部遠足筈ナリシガ台風ノなごり物スゴク断雲ハ石狩平原を対角ニ飛ブ、自重シテ中止。

十月三日 日曜日対小樽高商野球庭球試合アリ。

イズレモ大勝!! 天気晴朗秋晴絶好ノ機、遠足スル人モ多カリシ  
赤井君忍路ニ実習ニ出発、岡田君小林君帰舎。

十月四日 競売ヲ行フ成績佳良。<略>

十月九日 文武会ノ遠足、野幌ニ行ク、スコブル怪シキ天気ナリシガ決行セリ。

十月十日 日曜日 秋季大掃除ヲ兼ね、室替を行ふ。好天気也。組合セ左ノ如シ

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1. 鈴木貞雄君        | 2. 赤井英吉君        |
| 3. 渡辺国雄君・山形 汎君  | 4. 太田廣吉君・山口九郎君  |
| 5. 奥田義正君・岡田玄武君  | 6. 小林作五郎君・鈴木誠志君 |
| 7. 中村弘志君        | 8. 小野誠四郎君・松本彰君  |
| 9. 宍戸忠雄君・山内和三郎君 | 10. 小国潔君・山田弥三郎君 |
| 11. 富永長久君・笹部義一君 | 12. 馬場常次君       |

午前中ニ舎内全部終了、午後、池の掃除ヲナス

〇〇日 山縣君剣道部合宿ニ行ク

十月十七日 年中行事の手稲山登山 アツラヘ向の日本晴、時期少シ遅シ、紅葉スデニ散り落ちタリ、一同元気盛也キ、(十二名)

尚本月廿日創立二十二回記念日を行フ事ニ決定ス、委員左ノ如シ

接待係主任笹部君 委員赤井君、渡辺君、山田君、

食事係主任奥田君 // 鈴木(誠)、宍戸君、小野君、馬場君、松本君

餘興係主任鈴木君 // 太田君、小国君、山縣君、山内君

装飾係主任中村君 // 岡田君、山口君、小林君

会計庶務 大小島君

十月廿日 ストーブ据付、又、其他の室二人、火鉢ヲ入レタリ。

十月廿日 教育勅語換発卅年祭、当日授業ナク十時より中央講堂にて式を挙行す。出席者には紅白の祝餅を下さる有難し。

尚、本日ハ舎生一同の待ちにまちし創立第二十二回記念祝賀会の当日たり、気早き装飾係は昨日より色々とし式の飾付をなせり、例年になき物々しき舞台をしつらへり、五時食堂を開かる、来賓として宮部舎長、石澤氏、河村氏亀井氏北村氏五藤氏及び遠く高島水産試験場なる小松氏来臨せられたり。

御馳走として赤飯ニ頭付目下約一尺の焼魚、兎の汁、口取、口肴にハ、リンゴ、卵焼、キントン、羊羹、海老、いずれも手製也。

六時より開会、副舎長大小島君の開会の辞ニ始まる。舎長訓示及来賓各氏の演説終りて余興となる。

当日の呼物左の如し。

国歌合唱、尺八、岡田君、太田君

義太夫壺坂靈現記 太夫小野君、口笹部君

学生劇「懺悔」新入舎生一同 山縣君、山田君、山口君、松本君

豪傑躍り、農実団 笹部君、鈴木君、小野君

落語「無策の有策」鈴木君（誠）

出鱈目小学校鳩ポッポ 太田君、小国君、宍戸君、山内君、笹部君

史劇「有王島下りの事」豫科組 小林君、奥田君、山縣君、馬場君、山田君

大魔術天勝一座 土木組 山内君、小国君、宍戸君

気狂踊 林実 岡田君

犠牲（イガミの権太首実検の場）水産ウラシマ組

楽部 太田君、鈴木君、赤井君

森の小蝶 小国君

以上にて早や十二時過となり、後には農実一座のロシア劇「ベルス」及土木組の活動写真「オボロ月夜」などありたれどもこれにて中止したり、時既に十二時半、頗る盛会、和気藪々裏に会を閉ざしたり。

（尚、当日の寄附金及祝電詞に関しては十一月二十八日の日誌に記載せり。）

十月卅一日 天長節、誠に温かき長閑なる佳き日、我等六千の赤子謹んでこの佳日を祝し奉る。

十一月一日 明治神宮鎮座祭にて休講

十一月六日 土曜日 初雪

十一月二十二日 中村君家用ニテ東京ニ帰省ス

全二十五日 夜大小島君帰舎ス、君ハ九月以来大学経済科ニ学ビシガ痛く自己ノ進ムベキ路ニ違ヘルを覺り決然本大学を去り東京帝国大学の文学部ニ入ルベク決心セラレ家庭ノ了解ヲ得んために帰省せられし也、一同痛くこの良副舎長を失ふを惜むれ共致方ナシ。

全二十六日 新しき生涯ニ入らんとして東京に向かふ副舎長を送別せんがため、一号室ニコンパを開く、大小島君より副舎長として十分其責を果さざりし事を最も残念と思ふ旨挨拶あり吾等は又君が其胸裏の經綸を果さざりし事を舎の為に惜めり、職に任ずる日浅し者あらんや君の去るや、実に我舎に於ける大不幸也、只一同今後益々一致団結して舎の為に盡さん事を誓ひ、然かとして君が前途を祝福せり。

二十七日 月次会を開く

宮部舎長及び亀井氏来会あす、副舎長を失ひしよりして一同何となく沈み勝に且緊張したり、舎長より今後中村君に副舎長を任命さるゝ旨御話しありき、今後一同今後の処置に付色々申し合せをなしたり

当日委員は、鈴木貞君、鈴木誠君、太田君、山口君、御馳走は◎牛鍋、年来の陋習を破りてか、ヒヒーン。

廿八日 決算を行ふ。

尚先月廿日舉行せる紀念日に対して送られし寄附金は左の如し。

宮部先生、田中悦郎氏、以上五円也

石澤氏、河村氏、北村氏、五藤氏、小野氏、高橋氏、以上参円也。

亀井氏小松氏村岡氏小堀氏佐藤氏以上貳円也。渡辺氏四円也。合計四拾貳円也。

内拾円を舎基本金に入れ、参拾貳円を費用に廻せり。

尚、当日朝倉氏、岡部氏より祝電あり、上杉氏より祝詞を寄せられたり。

卅日 宍戸君、小国君四月迄外泊すとて下宿を求めて移転せり。

十二月一日 此日より朝洗面場に湯を設く。

夕食后競賣を行ふ。但し、大小島君寄贈の雑誌也。

馬場君 貳拾錢 鈴木君九拾九錢

鈴木誠君五拾貳錢 山縣 七拾四錢

山内君 五拾八錢 奥田 拾貳錢

山田君 五拾一錢 赤井君 六拾六錢

太田君 参拾七錢 岡田君 参拾五錢

山口君 参拾錢

十二月五日 朝中村君東京より帰舎す

晩林学実科二年生山口千之助君入舎せらる。

七日 ポンドの氷かたまりで鈴木誠志君スケートの初すべりをやる。学校のポンドも今日より盛に行ふ。

八日 7号の中村君舎室に入り○後に鈴木誠志君入ル。

十日 早朝赤井君小樽に実習に行く。十五日帰舎。

十七日 本日より水産、土木、予科の学期末試験

廿二日 鈴木貞雄君山口九郎君夜九時に帰省せらる

廿三日 渡辺国雄君帰省

廿四日 本年度最終の月次会、水産、土木の試験終らざるため出席人員少けれども、皆眞面目にして緊張せる会合なりき。

宮部舎長は本年還暦の歳にあたられるとか、先生の今迄に踏まれたる御経歴を話され我々一同謹んで拝聴せし次第也。

先生は萬延元年江戸下谷御徒町に生れ、代々幕臣たり、されど先生の父君は勤王の志厚く、よく王、幕の間を奔走されしと、先生は十三才の時、横濱の高島嘉右エ門の正則学校に入り米国式の教育を受けタマタマ火災にあひて学校消滅せしなれば東京の大学豫備門たる外国語学校に入りタマタマ札幌農学校の募集に来れるに遇ひ、同級生、新戸辺、内村氏らと札幌にこられ、爾来植物学を専攻せられ、卒業后東京帝大理科に入られ卒業

后又米国に留学を命ぜられハーバード大学に三年研学さる。後一年欧州に遊びて帰朝せられたり、爾来当大学を今日の繁盛に至せらるゝ迄の御努力ハ一方ならぬものなりき。当日の委員は馬場君、山田君、山縣君、奥田君、尚当日の御馳走たる肉飯は類例なき出来なりき。

廿五日 早朝山縣君山田君帰郷、小林君小樽に行かる

廿六日 山内君早朝帰郷さる。赤井君午後帰郷さる

廿七日 例年の如く、餅搗き也、早朝五時より取りかゝり午後三時頃終了せり。石澤氏及舎長御宅に大なる鏡餅を贈る。

廿八日 昨日の餅を切る。猛烈なる大吹雪となり折から丸山へスキーに行ける馬場、笹部、両君のために救援隊を組織し、山口、松本両君之が任にあたりしが無事其任を果たし一同無事に帰舎する事を得たり。

十二月卅一日、小林君小樽に行く。

中村君、馬場君、山口君のスキー隊三角山の頂上を極めたり。

本年度に於ける活躍の納め乎。夜忘年会を副舎長室に行ふ。本年度に於ける本舎の事件を見るに、六月に於て元老たる小野、岡田、伊達、渡辺の諸氏を送り又十月には大小島君去りて舎は全く新起源を起すべき新人のみとなれり。幸に大なる不幸もなく平穩無事に過ぎし事、全く賀すべき可也。